

海外生活 エッセー

ロンドン事務所

コロナ禍であることを一瞬忘れられる場所

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 萩ノ脇 彩子 (岐阜県派遣)

ロックダウン下では、スーパーや薬局などの生活に必要な不可欠なお店以外は閉まっているため、出かけられる場所は限られています。ロンドンでは、飲食店もテイクアウトしか営業できず閉店していることが多いため、街は閑散としており、ホームレスの姿も目立ちます。

しかし、ロンドンには公園がたくさんあり、公園ではコロナ禍であることを一瞬でも忘れることができます。なぜなら、公園での人々の穏やかな表情や自由な過ごし方を眺めることで、自分自身も穏やかな気持ちになれるからだと思います。今回は、ロンドンにおける人々の公園での過ごし方についてレポートします。

→木からエネルギーをチャージ

いちばん素敵だと感じたのは、大木にもたれかかり、本を読む人がいることです。まるで、木からエネルギーをチャージしているように見えます。また、丸太が残されている公園では、丸太の上に子供を乗せ、丸太越しに会話をする人や、丸太を椅子代わりにしてパソコンで作業する人もいます。さらには、円形に植えられた木の中心に座ってランチをする人もいます。人々が自然に直接触れることを居心地が良いと感じていることが見て取れます。また、ベンチも5人くらいまで座れそうなほど長いうえに、十分な間隔を保って設置されていることや、園内が広いので他人の目を気にせず、自由に過ごせることが素晴らしいと思います。

→リスと鳥を観察して楽しむ

公園では、必ずといっていいほど、リスを見かけますが、バッキンガム宮殿に近いセントジェームズパークであれば、鳥も多く見かけることができます。動物全般を苦手感じていた私も、公園では鳥を観察するようになり、また、周囲の人が自分たちの前をゆったりと歩く

鳥を見て微笑んでいるところを見ると、動物と触れ合うことで、優しい気持ちになれるということを身に染みて感じることができます。さらなる楽しみ方としては、公園でグラスを片手にチェスをする人もいます。

人との交流が制限される中、自然に溶け込み、自由にリフレッシュを図るロンドナーの姿はとても興味深く、人々の心のオアシスとなる公園の必要性を大いに感じました。



丸太の上に座り会話をを楽しむ人々



適度な間隔が保たれて設置されているベンチ



公園内を堂々と歩くハイイロガン